

令和 7 年度

事業所名 : グループホームぬくもり (うめユニット)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100128		
法人名	社会福祉法人健慈会		
事業所名	グループホームぬくもり (うめユニット)		
所在地	〒028-8202 岩手県九戸郡野田村大字玉川5-45-22		
自己評価作成日	令和7年10月20日	評価結果市町村受理日	令和8年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は一人ひとりに合った楽しみを持った生活ができるよう支援することを目標にしています。認知症チームケア推進加算に取り組み、ニーズ聞き取りシートを活用することで、日々の生活がご本人様の望む暮らしに少しでも近づくような支援を心掛けています。また、職員の定期的な学習の場を設けることで、認知症への理解も深まり、個々で考え、行動できる職員が多く、利用者が一人ひとりのペースで穏やかに過ごされているユニットです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は野田玉川駅の正面にあって小規模特養施設と併設され、グループホームの2ユニット、特養の3ユニットが放射状に配置されて一体的な運営がなされている。事業所では毎年度、事業目標を作成し、2か月に1回開催するユニット会議で2か月間の業務目標と業務の振り返りを行い、計画的なサービスの実施に努めている。入居時には家族から「暮らしの情報」として様々な情報を提供してもらうほか、年2回「ニーズ聞き取りチェックシート」によって利用者の思いや希望を確認するなど、利用者本位のサービス提供に工夫をこらしている。また、家族にはLINE登録してもらって必要な情報提供を素早く行うことを実践している。地域との交流にも力を入れており、地元の婦人会や保育所との交流のほか、広報誌を年4回、玉川地区の全世帯に配布して理解の促進を図っている。地域からは高齢者福祉の拠点として期待を寄せられており、その期待に応えて真摯で明るい事業所運営がなされている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年11月17日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名 : グループホームぬくもり (うめユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念をユニット内に掲示し、ユニット会議で唱和し、共有している。また、基本理念に則った事業計画、ユニット目標を設定している。	開設当初に定めた理念を事業所内に掲示するとともに、2か月毎に開催するユニット会議で職員全員が唱和している。見直しも検討したが、職員間に浸透していることから継続としている。また、ユニット会議では理念に基づく2か月間の具体的な業務目標を定め、次の会議で実施状況を評価し、日々のケアに理念が活かされるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	村の行事(どんと祭、野田まつり)等へ行くなど、地域での暮らしを継続できるような企画、支援をしている。駅前の花植えも継続し、水やり活動などを行う事で、地域の一員であることを実感できている。	事業所前の野田玉川駅の前プランターの花植えを継続して行っているほか、事業所広報誌を玉川地区の全戸に配布して情報発信に努めている。敬老会には地域の婦人会が来訪して歌と踊りを披露し、保育園児らも来所して利用者と交流し喜ばれている。今年は地元の中学生在が職場体験で来所する予定もあり、地域との連携が進められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	他事業所で運営しているカフェ等の視察、認知症カフェの再開の検討を行ったが、実施には至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	隔月で定期的に開催し、管理者および利用者ご家族様が出席している。出席者からいただいた意見をもとに、サービスの改善を検討している。	運営推進会議は併設の特養施設と合同で開催しており、委員として民生委員、地域住民代表、地域包括センター職員、村保健福祉課職員、利用者家族代表が参加している。昨年は防災計画の見直しがあり、その企画から参加していた消防分団長も会議のゲストとして参加している。会議では防災やコロナ対策など様々な意見が出されているものの、地域関係者の参加がない場合も見受けられる。	同会議は外部からの意見や質問を伺う貴重な機会であるため、開催に際しては地域関係者の出席が確実に得られるような配慮が必要と思われます。これにより、さらに活発な会議となるよう期待します。

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぬくもり (うめユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域ケア会議や研修会の機会に欠かさず参加し、地域の情報共有や、課題解決に向けた話し合い、事例検討などを行っている。	運営推進会議には村保健福祉課の職員が毎回参加しており、事業所の状況を良く把握されている。村の保健センターに村保健福祉課や地域包括支援センターがあり、事業所から訪れる機会も多く連携が図られている。村主催の地域ケア会議には管理者が毎回参加し、情報交換のほか、参加事業所と一緒に事例検討も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人として権利擁護委員会(身体拘束廃止、虐待防止)を設置し、身体拘束廃止に向けた話し合いや取り組みを行っている。また、年2、3回の研修も開催し、職員の知識・技術向上、意識啓発に取り組んでいる。	特養と合同で管理者やケアマネ等で構成する権利擁護委員会を3か月に1回開催している。スピーチロックの対策として、11月を言葉使い見直し月間としてポスターを掲示するほか、年2回は全職員がセルフチェック表による自己評価に取り組んでいる。また、不適切な言葉遣いなどが見られた場合には、その場で管理者から指導するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人として権利擁護委員会(身体拘束廃止、虐待防止)を設置し、虐待防止を意識した支援を行うよう、年2、3回の研修を開催している。また、毎年、スピーチロックの防止のポスター掲示を行うなど、啓発に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者を中心に研修会に参加、支援の必要性のある利用者様については、利用者様、ご家族様と相談しながら必要な支援が受けられるよう対応している。基幹社協が運営している権利擁護センターとも連携している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぬくもり (うめユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の際には、契約書や重要事項説明書は丁寧に説明するように努めている。不安や疑問点についてはいつでも相談できるよう声をかけ、後日の電話やSNS相談にも対応している。利用中の問い合わせにも納得していただけるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様来設時や電話連絡の際には、声かけを行いながら、ご家族様からの意見も伺えるような雰囲気づくりを心掛けている。利用者様、ご家族様からの要望については、対応の可否について、管理者も含め検討している。	家族が面会や通院の付き添いで来訪の際には、要望等がないか声掛けして伺っている。現在は家族の8割以上が事業所のLINEに登録しており、通院結果やケガをした際の状態などを素早く伝えるようにしている。LINE登録によるコミュニケーション方法の改善もあり、家族からはあまり運営に係る意見や要望などは寄せられていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は運営が厳しいという一言で片付けることが多く、職員の提案に対する聞き取り方に職員ごとに差異があるという声がある。定期的な意見聴取の機会は確保されていない。	2ヵ月に1回のユニット会議では、なるべく事前に各職員から意見などを出してもらったうえで話し合っている。ケアの事柄を主にしながら、食事の内容や土日の業務内容、エアコンの故障など、多くの意見が出され改善に繋げている。管理者との個別面談は年1回と必要な際に行っているが、管理者と職員が個別にLINEでつながっており、意見・提案を出しやすい環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業時間や給与水準は維持されている。一時的な人員不足により一部職員の残業時間が微増したが、月数時間以内に収まっている。適宜経験年数やキャリアに応じた資格取得を勧めている。		

事業所名 : グループホームぬくもり (うめユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内の法定研修は実施している。経験年数やキャリアに合わせた外部研修に適宜参加している。新任職員に向けたOJTの取り組みも出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	現状では感染対策や人員不足の影響により、地域住民やボランティアの方々との積極的な交流が難しい状況である。今後は感染状況を注視しつつ、地域との繋がりを再構築できるように交流の機会を検討している。年1回の県協会の事例報告会には参加し、事例発表をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居初期の段階で、管理者やケアマネが利用者様やご家族様と丁寧に関わることで信頼関係を築いている。これにより、サービス開始後もご本人様の要望等を率直に伺い、対応することができている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居面談や事前の申し込みの段階で、施設での生活やサービス内容について具体的に説明し、ご家族様の不安や疑問に丁寧にお答えすることで、安心して入居に繋がるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	契約の際には、利用者様とご家族様のお話を丁寧に伺い、心身の状態や生活歴を踏まえた上で、その方にとって今本当に必要なサービスが何かを共に考え、ケアプランに反映させている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぬくもり (うめユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯物たたみや配膳など、利用者様ができること、得意なことをお願いし、「ありがとう」「助かります」といった感謝の言葉を伝えることで、役割を持って生き生きと過ごしていただけるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	電話連絡や面会の際に、施設での楽しそうな様子や日々の小さな変化をお伝えしている。これによりご家族様との情報共有を密にし、協力しながら支援にあたる関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	感染状況が落ち着いてきたことに合わせ、ご友人との面会や外出の機会を設けている。利用者様の希望を尊重し、大切な人との繋がりを維持できるよう支援している。	居室での面会ができるようになり、家族のほか、親戚や近所の友人、遠方の子や孫など馴染みの人の面会が増えてきている。家族の付き添いで、昔からの馴染みの美容院に行く方もいる。多くの利用者は毎月の訪問理容を利用しており、新たな馴染みになっている。「野田まつり」にも出かけて、伝統ある山車を見物して楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士の会話が弾むよう職員が話題を提供したり、時にはそっと見守ったりと、状況に応じて関わり方を変えている。皆様が気持ちよく過ごせるような人間関係づくりを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	訪問診療や訪問看護の導入など、新しいサービスを利用する際には、その内容や目的を事前に利用者様やご家族様に丁寧に説明している。また、サービス事業者と密に連携し、円滑な導入と継続的な支援に努めている。		

事業所名 : グループホームぬくもり (うめユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話の中から「～がしたい」「～が食べたい」といったご希望を丁寧に聞き取り、安全に配慮しながら実現できるよう、職員間で協力して支援している。	利用者の8割くらいの方が、思いや意向を言葉で意思表示できており、職員が年2回、「ニーズの聞き取りフォーマット」に思いや意向を記入し職員間で共有している。内容ではウニやホタテなどを食べたいとする事が多いが、女性では息子やペットの事を気にしている方もいる。また、家族の付添いで墓参りや外泊をしてくる方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者様一人ひとりがこれまで歩んでこられた生活歴や大切にしてきたことを尊重し、家庭的な雰囲気の中で、その方らしい暮らしを継続できるような個別ケアの提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	表情や食欲、活動量など、日々の細かな変化に気を配り、その日の心身の状態に合わせた柔軟なケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的なカンファレンスで各利用者様の状況を多角的に検討し、ケアの方向性を統一している。必要に応じてご家族様にもご参加いただき、ご意向を伺いながら協力体制を築いている。	入居時の計画は10日から2週間で見直しを行い確定させている。その後は概ね6ヵ月毎に居室担当者がモニタリングを行い、ケアマネが確認したうえで見直しを行い、ユニット会議で話し合って確定している。計画書には家族からの要望等を記入するスペースがあり、なるべく記入していただいて実際のケアに活かされるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の小さな気づきや変化を詳細に記録し、職員間で確実に情報共有することで、ケアの質の向上に繋げている。これらの記録は、定期的ケアプランを見直す際の重要な情報として活用している。		

事業所名 : グループホームぬくもり (うめユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	急な面会の希望や、普段と違う時間帯での食事など、利用者様やご家族様のご意向には、安全面に配慮した上で、可能な限り柔軟に対応できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新型コロナウイルスが5類へ移行したことで、外出も増え、バスレク、地域の店、祭りの見学などへ行き、地域との関わりを忘れず、地域を感じ触れ合える暮らしを楽しめる支援を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	そのつど、変化などがあつた時だけでなく、定期的にご家族様へ利用者様の情報提供を行い、施設入居前から関わりのある、主治医、病院との適切な連携支援を行っている。	入居前からのかかりつけ医を継続しており、大半の方が久慈市内の精神科医院やクリニックを利用しており、1ヵ月～3ヵ月に1回の割合で、主に家族が付き添って通院している。今年からは、週1回の訪問看護を活用しており、夜間対応も可能であるため、安心感がある。また、隣接の特養施設の看護師も対応可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	今年度半ばより、訪問看護とも連携し、夜間、日常、日中の緊急時等もフローチャート等を活用。その日のバイタルサイン、様子、心身状況も適宜相談、受診時の情報も共有し、助言をいただき、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	北三陸ネットを活用し、医療関係者と協働している。入退院時は、ご家族様、医療機関と、情報の共有を行い、治療、そして退院後の生活がより良い日常生活を送れるように介護、医療と協働している。今年度半ばより訪問看護とも協働している。		

事業所名 : グループホームぬくもり (うめユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	日々の様子や変化を担当者、リーダー、介護職、医療職等で情報を共有し、ご家族様・医療機関と連絡している。施設でどのような対応が可能か話し合いを設け、できるかぎり、その人らしい生き方を支援し、施設単独で対応困難な場合は、関係機関(特養や看護小規模多機能)と連携している。	入居時に重度化した場合の対応について、予め本人や家族に説明し理解を得ている。事業所では協力医師の確保も難しいため看取りは行っておらず、要介護3以上となった場合には、同法人系列の特養施設等への住み替えを支援している。また、入院のほかに、同系列の小規模看護多機能ホームを利用して自宅での看取りを希望する方もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的にリスクマネジメント委員会を中心に、急変時の対応する方法の評価、さらに、新人研修を行っている。フローチャート、利用者様のリスク等を一覧にまとめ管理することで、急変時、事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練の実施、日中に物品の備え、シミュレーションを行っている。夜間帯の避難は職員だけでは人手不足になる為、地域の方々に協力体制を組めるよう、日頃から利用者の話を理解することも課題となる。昨年度は地域の消防団と連携した災害避難訓練を実施した。	事業所はハザードマップでは浸水や土砂崩れの区域とはなっておらず、年1回の災害対策訓練と年2回の火災想定避難訓練を併設の特養施設と一緒に実施している。夜間想定訓練では、5人ほどの車いす利用者があるが、特養職員を含めて5人の職員で何とか避難させることができた。また、近所には協力できる消防団員もおり心強い存在となっている。備蓄品は3日分程度を備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員全員が入居前の個々の生活歴を把握し、日々のコミュニケーションで信頼関係を築くように業務を行っている。日頃から周りの職員同士でお互いに気配りをしている(言葉遣いや利用者様との接し方など)。	職員は日頃から利用者の個性を尊重し、「さん」付けで丁寧な声掛けを心掛けている。トイレ誘導の際には、周りの方に聞こえないよう小声で話すなどの配慮を行っている。排泄で失敗した場合には、周りに気付かれないようそっとトイレに誘導し、申し訳ないと言う方には、「大丈夫ですよ」と話し、優しく接している。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぬくもり (うめユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	過去にどのようなことをしていたのか(趣味、仕事、役割)など、入浴時など個別に過ごされている時に聞き出し、職員で共有するように努めている。ニーズの聞き取りを行いできるだけ自己決定感が得られるようケアプランにも反映できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日頃の心身状態や体調を職員が理解し、一人ひとりのペースに合わせ、無理な時は、時間をずらす、日をずらす、職員を替えるなど、臨機応変に対応するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った服装やご家族様が持参された服などご自身のものを着用している。「まだ寒い」と言われる声も多いため厚着をしている方もおり、利用者様の希望を優先している。2月に1度程度の頻度で理容サービスを利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	家庭菜園をしており、季節の野菜や果物など提供している。週1回水曜日は地域の仕出し屋の食事を提供し、レクリエーション等では外食や季節食を楽しまれている。茶碗拭きや食器拭きなどを手伝っていただいている。	献立は1ヵ月分を事業所で作成し、主菜は職員と利用者が食べて美味しかった冷凍食品が毎日配達されている。ニーズチェックで調べた利用者の好みや状態に応じて、きざみやとろみを加えて提供している。敷地内の菜園では利用者も一緒に野菜などを栽培しており、食材として活用している。あずきばつなどのおやつ作りも一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの状態や好みに合わせ、おやつや水分を提供している。食事、水分の量を、1日通して、把握している。食事量が低下した場合、訪問看護や主治医とも相談し、補助食品等の利用を検討している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぬくもり (うめユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人ひとりの能力や状態に合わせて、毎食後口腔ケアを行い、適宜介助や仕上げもしている。また、訪問歯科とも連携し、ケアに対するアドバイスや口腔内の状態観察も行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	利用者様一人ひとりのタイミングでトイレ使用や見守り介助をしている。ある程度の排泄パターンを職員が把握し、当日の様子を観察し共有することで自力での排泄、清潔を保持している。	排泄チェック表を活用して適時の声掛けや誘導を行っており、全員がトイレでの排泄ができています。オムツ使用者はなく、リハビリパンツの利用者が15人、布パンツ使用で自立の方が3人います。また、6人が夜間にポータブルトイレを使用している。適時の排泄ケアの効果もあり、自宅で失禁していた方が入居後はほとんどなくなったという方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日の排便チェックを行い便秘時は適切な下剤使用を主治医や訪問看護と相談しながら行っている。また、普段から便秘をしないよう、水分補給や散歩等に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている。	入浴はスケジュール通りに行うだけでなく、利用者様の「今日はお風呂に入りたい気分」「今日はやめておく」といったその日の体調や気分を尊重し、時間や日を変更するなど柔軟に対応している。	週2回の入浴を基本としている。日によって入浴を嫌がる方もいるが、時間や日を変えて対応している。季節を感じられるゆず湯や菖蒲湯を楽しんでおり、4月には「さくら湯」として、浴槽にはピンクの入浴剤を使用し、浴室内に桜花の飾り付けも行い、特に女性の利用者には喜ばれている。入浴中は職員と1対1になるため会話も弾み、思いなどが話されることもあり、その内容はスタッフで共有するようにしている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぬくもり (うめユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりのペースに合わせて就寝していただいている。空調や周囲の環境を整え、快適に入眠いただけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬マニュアルに沿ってダブルチェックを行い、誤薬を防いでいる。受診の際、薬の変更や主治医からの指示を共有し、症状の変化や利用者の現在の状態を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	施設内外の散歩や農作業、軽作業(洗濯たたみ、茶碗拭き等)、利用者様が読みたい雑誌の貸し出しなど、一人ひとりに合わせた活動を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	現在は外出・外泊も行っている。感染症の流行状況によっては控える事もあるが、出来るだけ利用者様やご家族の希望に合わせて出掛けられるよう働きかけている。	バスレクリエーションでは、お花見で久慈市方面まで出かけたり、道の駅に立ち寄って食事や買い物を楽しんでいる。地元の野田まつりにも出かけ、事前に確保していた場所で伝統の山車を見物して楽しんできた。また、事業所周辺を散歩して楽しんだり、中庭に出て外気浴をしたり、菜園で野菜づくりや草取りする方も多くいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	紛失リスクを考慮し、基本的には事業所管理としているが、外出レク時など、利用者様の状態に合わせて一緒に必要な物を購入できる機会を設けている。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームぬくもり (うめユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様がご家族様やご友人に連絡を取りたいと希望された際には、いつでも支援できる体制を整えている。また、かかってきた電話は速やかに取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用スペースは常に清潔を保ち、季節ごとの飾り付けを行うことで、快適で潤いのある生活空間となるよう努めている。掲示物なども分かりやすく配置し、利用者様が混乱しないよう配慮している。	ホール内は集中エアコンで温度管理されており、年間を通じて過ごしやすく保たれている。壁面には家族に送付しているぬくもり新聞が掲示され、イベントで楽しんでいる様子がみられる。ホールでは、日中に風船バレーや玉入れ、脳トレなどを楽しんでいる。11月には、作品展示会として共用ホールで様々な飾り物などの作品が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	その時の気分や気持ちに合わせ、居室や共用スペース内、長椅子やソファなど一人ひとり思い思いに過ごすことができるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みのある物を御持参していただいたり、利用者様、ご家族様の希望を可能な限り聞き入れるなど居室環境整備に努めている。	居室には、ベッドや洗面所、タンスが備え付けられており、室温はエアコンによって適温に保たれている。利用者はそれぞれ、衣装ケースや馴染みの家族写真、テレビなどを持ち込んでいる。壁などには、行事での写真やクリスマスの作品などが飾られており、居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	日々のバイタルチェックや食事・水分摂取量の把握を通して健康状態を管理し、心身の変化に早期に対応できるよう努めている。安全で安心な生活の基盤となる健康維持を支援している。		